第 2014-39 号

恵みと真理のニュース

2014 年 9 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

主が私の中に私が主の中にいることがこの世の中で何物でも変えられない喜びであり幸せです

私は篤実に神様を信じ仕える親の元で問題なく心配なく平安に育ちました。日曜日には母の手を掴んで教会に行き礼拝を捧げ母の奉仕が終わるまで一日ずっと教会で過ごすのが当然でした。しかし、青年になって神様を信じない人と結婚してから信仰生活も徐々に疎かになりました。
イルサンで信仰生活を初め IMF の影響しかたなくスワンに引越しするようになりました。その当時に隣の家に住んでいた真実なおばさんが私達が引越しした事を聞いてスワンにも恵みと真理教会があるから是非通うように勧めました。引越しをすると以前の熱心を回復して誠実に神様を仕え愛することを決心しました。
スワンに引越しをして少しなれながら通う教会を決めるため神様に祈りをしておばさんの話を思い出して道を歩くたびにあちこち見ながら恵みと真理教会を捜しました。そうするうちに、ある日は二人の息子を連れて初めて村の美容室に行き主人のおばさんと話したらその方も恵みと心理教会を通っていたそうです。
あ！神様が私を愛してくださり時によって導いてくださるんだ“と思いました。神様に感謝を捧げました。恵みと真理教会の聖徒になって熱心に信仰生活をしました。愛が多い首区域長に出会いその方の様々の助けと配慮で教会中心生活を楽しくすることが出来ました。問題は夫の家族でした。全の家族が不信者で熱心に神様に礼拝を捧げ仕える私を憎み迫害をしました。夫の家族からいじめられました。信仰生活が大変になるほど説教の御言葉が恵みになり慰めと力になりました。礼拝のたびに当会長の牧師の説教に集中してもっと切ない心で御言葉の恵みを愛しました。そのように歳月が経って 2002 年 1 月 1 日でした。新年で全ての家族が集まって食事をする時に舅が話題を変えて私に、“社会生活は何をしてもかまわないが教会生活は絶対してはいけない。”大きい声で叱りました。舅の話で家の雰囲気は寒くなり私の心も痛かったです。私は何も言わなくその場所から離れキチンに行って一人で皿洗いをしました。ところが、5 分にもなってないが飼っていたやさしい犬が急にソファーで座っていた舅の腕を噛んでしまいました。みんなびっくりして犬をしかりました。その後何もないように過ごしましたが、私はこの事が心に残りました。その後からまもなく舅は消化ができなくて近い病院に行ったらもっと大きい病院に行きなさいと言われました。検査した結果“胃癌 4 期”診断を受けました。以後、4 ヶ月間闘病生活をするあいだ教会の多くの方が祈りと愛を与えました。私も 舅の介護をしながら病気が悪化されて舅の魂が救われ天国に行くように真心でお祈りしました。ある日は“首区域長が以前区域のある方が家族の夢をみた後、臨終の直前救われた話をしながら外気のように家族の中で誰かが 舅が天国に行く夢をみるように切に祈りをすると言いました。そして、何日後、夢でお墓が見えそのお墓のところで急に明るい光が天から照らす光景を見ました。あまりにも珍しい場面でした。夢から起きて 舅が天国に行くことを確信をしました。そして、嘘のように前で決心祈りをして、一週間後に天国に召されました。今も物日と舅の忌日にお墓に行く時に、その時を思い出して話し神様に感謝をします。
以後、私は様々な病気にかかった時に神様の愛と恵みに癒されました。右の腕がよく抜けたり糖尿病で大きい苦しむ時切に神様に祈ったら病院では特別に治療する方法がない状況でもきれいに治されました。旦那の職場と子供の学業問題でソウルで引越しするようになってカンナン聖殿で神様と教会を仕えるようになりました。そうする中で 2009 年に家の前の階段で倒れてあごと唇を 200 針も縫う事故があって次の年に村にある山で倒れて足が骨折され鉄を打ち込むくらい大きい事故までありました。しかし、私は落胆しなかったです。治療の神様を仰ぎ切に神様に叫びながら祈りました。
“主の手がわたしの上に臨んだ。わたしは主の霊によって連れ出され、ある谷の真ん中に降ろされた。そこは骨でいっぱいであった。 主はわたしに、その周囲を行き巡らせた。見ると、谷の上には非常に多くの骨があり、また見ると、それらは甚だしく枯れていた。そのとき、主はわたしに言われた。「人の子よ、これらの骨は生き返ることができるか。」わたしは答えた。「主なる神よ、あなたのみがご存じです。」（エゼギエル書 37：1～14）枯れていた骨も生き返る神様に切に祈り神様の恵みで今は鉄を抜いて杖も捨て軽く歩けるようになりました。この私の姿を見て旦那と姑と隣り人達が神様の奇跡だと神様を誇ります。聖歌隊で奉仕する旦那をみながらもっと神様に感謝をしています。ハレルヤ！私を択んで子供にしてくださり救いの恵みを与えて下さり時によって助けてくださる神様の愛と摂理に感謝します。また足りない私のためいつも祈ってくださる牧師と教区長またカンナン聖殿の多くの聖徒にも感謝します。全く回復できない乾いた骨も生き返る全能なる神様は乾いた骨のような私にも回復してくださり神様の計画を持って働いていらっしゃる事を強く信じて任された主の事に日々最善を尽くします。

［信仰コラム］

象徴と比喩で形容された預言の言葉

″預言を軽んじてはならない。″、（テサロニケの信徒への手紙一　5:20）

聖書が何かを正確かつ完全に明らかにしてくれるのは聖書だけです。聖書に対する人々の主張と教えが事実に合致するかを判断する基準も、聖書にあります。預言の言葉と呼ばれる神様の言葉を聖書は様々な象徴と比喩で形容しています。その象徴と比喩の意味がわかるとその誰も予言の言葉を尊重にするようになります。
第一に、剣で象徴しました。（ヘブライ人への手紙 4:12）人がこの世の中に住んでいる間避けられない悪魔を対敵するためには神様の甲冑を着なければなりません。（エフィソの信徒への手紙 6:14~17）その中で聖霊の剣（劍）と表現した’神様の言葉’は攻撃のための装備です。鬼は誘惑と困窮と苦難そして二段の迷いという手段を使って攻撃します。しかし、聖書に記録された神様の言葉、予言の言葉と対敵するば、十分退けて勝つようになります。第二に、光で象徴しました。（詩編 119:105）神の警告する言葉の光を通じて私たちが審判を免れて、救援を得ます。神様のお言葉の光をたどってけば、遂に神様が予備したところに至るようになります。神様のお言葉の光によってのみ万有の存在の根源と理由と、結局を知ることができます。
第三に、種にたとえました。（マルコによる福音書 8:5~8）神様の言葉はいろいろな種類の種です。罪許すことと永生を結実させる言葉の種、平安と大胆さを結実させる言葉の種、慰労と希望を結実させる言葉の種、治療と健康を結実させる言葉の種、富と豊満を結実させる言葉の種があります。第四に、火事で象徴します。（エレミヤ書 23:29）神様の言葉は罪悪の考えを消滅させてしまいます。そして我々の心に感動の炎を引き起こします。五つ、バットに象徴しました。（エレミヤ書 23:29）がんあくした者には神様言葉が審判のバットです。しかし、神様のお言葉のバットを迎えて神様の前に伏せて悔悟することになれば、そのバットは恩のバットになります。第 6 の鏡に象徴しました。（古典 10:11）鏡は日常生活に必ず必要なものです。私たちが鏡を見る理由は、自分の姿を端正にするのにいます。そのように私たちは神様のお言葉の鏡をまめに見て自分の誤った姿を直さなければなりません。
7 番目、金で象徴しました。（詩篇 119:72、127）神様のお言葉の価値は生地は万金とも比較できません。神様言葉を千金よりもっと変い慕う人は神様がくれた知恵を得て、堅固な信念を持つようになります。八番目、水で象徴しました。（エフィソの信徒への手紙 5:26）神様の話を読んで聴いてに私たちの心霊が貞潔になります。″青年が何とその行いをきれいにするか主の言葉に沿って慎むことなり″（詩篇 119:9）しました。第九、様式で象徴しました。（マタイによる福音書 4:4）私たちの魂は神様の言葉を摂取しなければなりません。そして偏食してはいけません。そして、旧約聖書と新約聖書を全て拝読しなければならず、継続して摂取しなければなりません。10 番目、蜂蜜に象徴しました。（詩篇 119:103）神様のお言葉の味をつけに感じることができる人こそ福があります。
聖書は神様の言葉が記録された本であり、神様からもらった預言が記録された本です。どんな人たちは聖書は古い本なので、時代に遅れをとってその価値は消滅したと批評します。今日は聖書が必要ないほど進歩して発展したと主張したりします。それはあたかも太陽が長い間、映っていたために今日に必要ないと言うより愚かな言葉です。世の中が変わっても神様のお言葉の権能と価値は変わらないです。神様お話は私たちを最上の知識と知恵として生きさせてくれます。そして真の願いと喜びを持って生きさせてくれます。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

私にはいつも所望があります

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖書にはイエス様を信じない人々を示して **“この世の中で希望もなく神もない者であった ”(エペソ人への手紙,2:12)**と言いました. **“望みを持たない外の人々のように、”(テサロニケ人への第一の手紙, 4:13)**とも言いました. 聖徒たちには “あなたがたの中にある所望に関する理由を問う者には答えることをいつも予備しなさい”と言いました. このように所望と係わってすべての人を “所望ない人”と “所望に関する理由がある人”で分別しました. 今日の本文に “あなたがたの中にある所望に関する理由を問う者には答えることをいつも予備しなさい”と言いました. “あなたがたの中にある所望”と言いました. 神様によってうちの中にある所望を二つの方面で分けてよく見ます.

第一は、神様が予言なさって約束した言葉に根拠した所望です.

アブラハムの例を見ます. アブラハムは 75 歳になる時まで子がいなかったです. ところである日からアブラハムは盛んな子孫に対する所望を持つようになりました. その所望は自分の欲望と夢から出たのではなかったです. 光栄の神様がアブラハムにおっしゃるのを **“時に主はアブラムに言われた、「あなたは国を出て、親族に別れ、父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう。”(創世記, 12:1,2)** しました. アブラハムは神様がおっしゃったお話しに根拠して盛んな子孫に対する所望を持つようになりました. アブラハムが神様の約束を受けた時は 75 歳でした. アブラハムは神様が指示するガナアン地に行きました. アブラハムの年 85 歳になっても子がいなかったです. アブラハムは約束が遅く成り立つによってその約束の成就方法に対して誤解しました. そして妻サラの忠告を従って女しもべハガルを通じてイスマエルを生みました. その事によって家庭に紛乱が起きて当惑になる苦痛を経験するようになりました.
アブラハムの年 99 歳になったある日, 神様が旅人の姿でアブラハムの帳幕を訪問しました. そしてアブラハムとサラにおっしゃいました. **“アブラムの九十九歳の時、主はアブラムに現れて言われた、「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前に歩み、全き者であれ。わたしはあなたと契約を結び、大いにあなたの子孫を増すであろう」。”(創世記, 17:1,2)**. そして彼らの名前を変えなさいとおっしゃいました. ‘アブラム’を ‘アブラハム’に ‘サレ’を ‘サラ’に変えて呼びなさいと言いました. アブラハムは ‘多くの群れの父, 列国の父’という意味があって, サラという ‘多くの群れのおかさん, 列国の母’という意味があります. アブラハムは 神様の約束に基づいてないものをあるもののように呼ぶ神様の意味を悟って名前を変えて呼びました.
そしてアブラハムの年 100 歳にいよいよその妻サラを通じてイサクを生むようになりました. イサクがとヤゴブを生みました. ヤゴブは１２人の息子を生みました. その１２人の息子を通じてイスラエル民族が形成されました.
アブラハムが神様の口約束に根拠していた所望は結局現実化になりました.持続的に所望を抱いて忍耐しようとすれば二つの努力が必要です. 第一, 神様が約束した言葉を繰り返えして聞かなければなりません. 第二, 神様が約束した言葉を従って口で自認めなければなりません. そうから終りまで所望をつかんで結果が成り立つまで進まなければなりません. 神様の予言と口約束が記録された本が聖書です. 皆さんは聖書に記録された言葉に根拠した所望たちが心に一杯になるように願います.

二番目は、イエスキリストのあがないの恵みに根拠した所望です.

神様がくださる所望はイエスキリストの中にいる者にくださる贈り物です. イエスキリストが聖書に予言されたとおりこの世の中へいらっしゃってあがないの死を死んで死亡権勢勝って生き返えたし昇天なさって神様の宝座の右側に座ることでイエスキリストを信じるすべての者は所望を持つことができるようになりました. イエスキリストによってくださる真の所望, 永遠な所望は非常に多様でふんだんです.
すべてのものが合力して善を成すようになる所望があります. **ローマ人への手紙, 8 章 28 節に “神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。”** 言いました. この言葉はイエスキリストを信じる皆さんに何の事に会おうが所望を持つように保証してくださる言葉です. だからクリスチャンは患難の中にも所望を持つようになります. 義の冕旒冠をかぶるようになる所望があります.
私たちが神様から義のあると認定を受ける理由は一つだけです. イエスキリストを信じるという理由です. **ローマ人への手紙,3 章に “彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。それは、今の時に、神の義を示すためであった。こうして、神みずからが義となり、さらに、イエスを信じる者を義とされるのである。”(ローマ人への手紙 3:24,26)** しました. 使徒パウロは義の所望に対してこんなに打ち明けました. **“わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。今や、義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には、公平な審判者である主が、それを授けて下さるであろう。わたしばかりではなく、主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるであろう。”(テモテへの第二の手紙, 4:7,8)**
永生と同時に相續者になる所望があります. テトスへの手紙,3 章 7 節に記録されました. **“これは、わたしたちが、キリストの恵みによって義とされ、永遠のいのちを望むことによって、御国をつぐ者となるためである。”** しました. 神様の褒め言葉と賞を受けるようになる所望があります. 使徒パウロは勧勉するのを **“だから、愛する兄弟たちよ。堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはないと、あなたがたは知っているからである。”(コリント人への第一の手紙, 15:58)** しました.
キリストがおっしゃるのを **“見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう。”(ヨハネの黙示録, 22:12)** しました.
イエス様の再臨と復活に対する所望があります. **コリント人への第一の手紙 15 章には “死人の復活も、また同様である。朽ちるものでまかれ、朽ちないものによみがえり、卑しいものでまかれ、栄光あるものによみがえり、弱いものでまかれ、強いものによみがえり、肉のからだでまかれ、霊のからだによみがえるのである。肉のからだがあるのだから、霊のからだもあるわけである。”(コリント人への第一の手紙 15:42～44)** しました. 聖徒たちの復活はキリストが再臨なさる日にあるようになるでしょう. **“ここで、あなたがたに奥義を告げよう。わたしたちすべては、眠り続けるのではない。終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられる。というのは、ラッパが響いて、死人は朽ちない者によみがえらされ、わたしたちは変えられるのである。”(コリント人への第一の手紙, 15:51,52)**. 天国で住むようになる所望があります. キリストが約束するのを **“わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。”(ヨハネによる福音書, 14:2,3)** しました. 今まで列挙した多様でふんだんな所望は私たちがこの世を渡る生の態度に深くて大きい影響を及ぼすようになります. 死に対してすぎるほど恐ろしがるとか悲しまないようにします. また歳月と持ったものなどを世の中の虚しい光栄と腐られるものなどのためにむだ使いしないようにします. すべてのものを神様の光栄のために使います **だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである。(コリント人への第一の手紙, 10:31)**. 神様を嬉しくするために使います(コリント人への第二の手紙, 5 5:9,10). キリストが尊くなることのために使います. また患難を積極的で能動的に勝ち抜けることができるようにします. **“なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。”(コリント人への第二の手紙, 4 :17)**が分かるからです.誰も所望を持って暮さなければなりません. しかし正当な根拠のない所望はついに悲しみと後悔を生むようになります. 所望の神様を離れた人間の思想, 制度, 努力はいつわりでむなしくなります. あまたある偶像宗教と巫俗信仰は人々にむなしい所望を持つようにして人々が所望の神様の位に進むことができないようにします. イエスキリストの中にある真実の所望を得ることができないようにします. 聖徒たちは人々が虚しい所望を捨てて誰にもいつもなければならない所望を持つように力をつくして福音を伝えなければなりません. イエスキリストは不滅の所望, 生きている所望の根拠になります. 全人類の所望で私たち一人, 一人の所望になります. キリストの中にある所望は皆 実在的な所望です. この地に住むうちにも私たちがそれを多方面に体験するがそのすべての所望を完全な現実で体験するようになる日が来るでしょう.

聖徒 皆さんはイエスキリストの中ですべてのものが合力して善を成すようになる所望, 義の冕旒冠をかぶるようになる所望, 永生と同時に相續者になる所望, 神様の褒めの言葉と賞を受けるようになる所望, イエス様の再臨と復活に対する所望, 天国で住むようになる所望がいつも充満するように願いします.